



支那幣制改革問題(4)

服部, 文四郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 26(3):379-406

(Issue Date)

1919-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053008>



支那幣制改革問題 (其四)

早稻田大學教授

ドクトル 服部文四郎

六、支那幣制改革問題ニ關スル斷案

支那幣制改革ニ伴フ種々ナル困難ハ以上述フルガ如クデアアル。支那ノ幣制改革ハ是等ノ困難アルガ爲メニ遂ニ之ヲ中止スベキカ。否支那ノ幣制ハ假令如何ナル困難ニ遭遇スルモ、支那ノ爲メ、我國ノ爲メ、將タ又世界ノ爲メ、是非トモ實行セザルベカラザル事デアアル。蓋シ苟モ一國ノ經濟社會ニ重大ナル關係ヲ有スル制度ノ改革ヲ爲サントスルニ當リテハ、何レノ世何レノ場處ニ於テモ、必ズヤ多カレ少カレ種々ナル困難ニ遭遇スルハ是レ已ムヲ得ザル避クベカラザル事デアアル。是等ノ困難ニ辟易シ躊躇スルニ於テハ、制度ノ改革ハ到底之ヲ實行スルコト能ハザルモノデアアル。要スルニ支那ノ幣制改革ノ前途ニ横ハル種々ナル困難ハ是レ遂ニ避クベカラザルモノナルガ故ニ唯ダ斷ノ一字ヲ以テ進ムベキデアアル。

サテ果シテ然ラバ支那ノ幣制改革ハ如何ニ斷行スレバ可ナルカ。吾人ハ大凡ソ左ノ如キ方針ヲ以テ進ムヲ必要且ツ適當ナリト信ズル。

第一。金本位制ヲ採用スル事。

支那幣制ノ改革ハ或ハ銀本位、或ハ銅本位、或ハ金爲替本位ヲ以テ適當ナリトスルモノ少ナカラザレド、金爲替本位ヲ採用スルニハ先ヅ金銀ノ比價ヲ定メ之ヲ維持スルヲ必要トスル。若シ其ノ比價ヲ維持スルコト能ハザレバ此ノ本位ハ到底成立シナイ。然ルニ今次ノ戰爭ハ其ノ影響トシテ恐ルベキ銀價ノ暴騰ヲ來シ、金爲替本位ノ採用及其維持ノ甚ダ容易ナラザルヲ證明シタ。金爲替本位ハ容易ニ採用セララルベキデナイ。次ニ銅本位ハ支那ノ各地方ニ於ケル取引ノ現狀ヲ標準トスルトキハ、支那ニ稍々適當ナル制度ナルガ如キモ、銅ハ其ノ價值ノ變動極メテ激烈ナルモノデ、之ヲ以テ價值ノ標準トスルコトハ出來ナイ。唯ダ銅ハ他ノ金屬ヲ補助スル作用ヲ有スルニ止マリ、支那内地ニ於ケル取引ハ極メテ少額ノモノナレバ是レヲ媒介スルニハ銅ヲ以テ最モ適當トストハ云ヘ、之ヲ以テ直チニ銅本位ノ採用ヲ主張スル譯ニハ行カス、我國ニ於テモ地方ノ山間僻地ニ於テハ、今尙ホ物々交換ノ行ハル、處少ナカラズ、貨幣ヲ用フル處ニ於テモ、其ノ取引額少額デ銅

貨ヲ以テ媒介スルニ適當ナル場合少ナカラザルモ、之ヲ以テ直チニ銅本位ノ適切ナルヲ主張スルコトハ出來ス。サスガニワーゲルモ、銅貨ニ重キヲ置キタルモ、猶ホ銀本位ヲ主張シ之ト相結合セシメタ。銅本位ハ到底問題トスルニ足ラス。更ラニ支那國民經濟ノ現狀ニ鑑ミル時ハ、支那ノ貨幣制度ハ銀本位ヲ採用スルヲ以テ最モ適當ナリト謂ハナケレバナラス。是レ何人モ異論ナキ所デアル。サレバトテ單ニ之ガ爲メニ支那幣制ノ改革ハ銀本位ノ採用ニ在リテ、所謂銀貨ノ統一ヲ以テ足レリトスト決論スルコトハ出來ス。之ヲ或ハ比律賓、或ハ印度、或ハ瓜哇、或ハ海峽植民地、或ハ墨西哥等ノ狀態ニ顧ミンカ、此等ノ諸國ハ其ノ經濟狀態發達ノ程度決シテ支那ヨリ非常ニ進ミタルモノナリト謂フコトハ出來ス。經濟發達ノ狀態ハ大同小異ニシテ互ニ髣髴タル有様デアル。然ルニ此等ノ諸國ハ、如何ニモ國內ニ於テハ銀貨ヲ流通セシメツ、アルモ、價值ノ標準ハ總ベテ皆金ヲ以テ之ニ充テ、居ル。支那モ其ノ貨幣ノ本位ニ金ヲ採用スルモ、國內ノ取引ニシテ其ノ額少ナクバ、何モ金貨ヲ一般ニ流通セシムルノ必要ハナイ。金ヲ標準トスルモ、或ハ銀貨、或ハ銅貨ヲ一般ニ流通セシメ、實際上ノ取引ヲ媒介セシムルコトヲ得ルノデアル。我國ニ於テモ、貨幣ノ本位ハ純金二分ヲ單位トスル金本位ナレドモ、金貨ハ

社會ニ毫モ流通スルモノアルヲ見ナイ。社會ニ流通スルモノハ紙幣ト銀貨ト銅貨トデアル。金本位ナレバトテ必ズシモ金ヲ一般社會ニ流通セシムルノ必要ハ無いノデアル。支那ニ於テモ金ハ唯ダ價值ノ標準タラシムレバ足り實際上ノ取引ハ或ハ銀貨或ハ銅貨或ハ紙幣ニヨリテ媒介セシムベキデアル。支那ノ民度低シトテ何モ金本位ノ採用ニ甚ダシク躊躇スルノ必要ハナイノデアル。假リニ一步ヲ譲リ、支那國內ニ於テハ其民度低キガ故ニ、金ヨリモ銀ヲ以テ本位トスルヲ適當ナリトスルモ、現在世界ニ列スル如何ナル國モ、今ヤ單ニ國民經濟ノミノ觀察ヲ以テ直チニ其ノ國ノ經濟制度ヲ定メルコトハ出來ナイ。國民經濟上ノ關係ト同時ニ國際經濟上ノ關係ニ顧慮スル所アラネバナラス。國際經濟ノ關係ハ、現今ノ如ク國際經濟上ノ關係日ニ益々密接トナル時代ニ於テハ、國民經濟上ノ關係ト同じク、否ソレヨリモ尙ホ一層重大ナル關係ヲ有スルモノデアル。從ウテ國民經濟上ニ注意ヲ拂フト同様カ若シクハ其レ以上ノ注意ヲ國際經濟上ノ關係ニモ拂ハナケレバナラス。此ノ點ヨリ之ヲ觀察スルトキハ、支那ハ國際經濟的關係ノ必要上、銀ヨリモ金ヲ以テ其ノ本位ト爲サザルベカラザルモノデアル。

蓋シ支那幣制ノ現狀ヨリ生ズル種々ナル不便ト不利益トハ金本位ヲ採用スル

ニ非ザレバ到底之ヲ芟除スルコトハ出來ス。特ニ日支ノ經濟的關係ヨリ之ヲ見ルトキハ、吾人ハ中心ヨリ支那ニ金本位ノ採用ヲ勸說セザルヲ得ナイノデアアル。固ヨリ金本位ヲ採用スレバトテ支那一般ニ金貨ヲ流通セシムルコト能ハザルガ故ニ金貨ニ代フルニ或ハ紙幣或ハ補助銀貨或ハ補助銅貨ヲ以テシナケレバナラス。然ルニ補助貨幣タル銀貨並ニ銅貨ハ補助貨タルガ故ニ、其ノ名目價值ハ實質價值ノ上ニ在ルベク、紙幣ニ至リテハ其ノ實質價值殆ンド絶無ニシテ、其ノ名目價值之ニ反シ甚ダ大ナルモノデアアル。補助貨幣ノ思想ナク、名目貨幣ノ何タルヲ知ラズ、總ベテ貨幣ハ其ノ品位ヲ知り、其ノ量目ヲ秤量シテ之ヲ授受スル支那ニ於テハ、右述ブルガ如キ紙幣及補助貨幣タル銀貨並ニ銅貨ハ、容易ニ流通スルコトナカルベシト言フコトガ出來ル。是レ支那幣制ノ改革ニ對スル一ノ障害タルト同時ニ、此等ノ通貨ヲ流通セシムルコト能ハザレバ支那ノ幣制改革ハ之ヲ實現スルコト覺束ナキモノデアアル。サレド金爲替本位ノ如キハ、他ノ貨幣ト交換スルコトナクシテ、唯ダ銀貨ヲ實質價值以上ニ流通セシメントテスルニ在ルノデ、是レ甚ダ困難ナルベキモ、金本位制度ニ於ケル紙幣ハ直チニ其ノ本位貨幣ト兌換シ、補助銀貨並ニ銅貨モ、亦之ヲ以テ金貨ト其ノ名目價值ヲ以テ交換セシメ得ルモノナレバ此

ノ規定ヲ厲行シ暫ク其ノ制度ニ慣レシムルニ於テハ、補助貨並ニ紙幣共ニ支障ナク流通シ、貨幣制度ノ改革ヲ實行シ得ルモノト考ヘラレル。

固ヨリ是レニハ、通貨ノ賈造私鑄ヲ防遏スルガ爲メ相當信賴スベキ警察力ノ存在ガナクテハナラス。警察力ノ儼存ハ中央集權ニ基ヅク權力關係ヲ必要トスル。然ルニ支那ニハ未ダ中央集權ノ實擧ラズ、警察力甚ダ微弱デアアル。是レ決シテ満足スベキ状態ナリト謂フコトハ出來ス。然レバトテ支那ノ中央集權ハ何レノ日ニ之ヲ豫期スルコトヲ得ベキカト云フニ何人モ之ヲ知ルコトハ出來ス。カ、ル豫測スルコト能ハザル將來ヲ漫然恃ミトシテ支那幣制ノ改革ヲ延期スルコトハ出來ス。是ニ於テ中央集權ニ代ル他ノ勢力ヲ求メナケレバナラス。此ノ勢力ハ是レ世界ノ文明國ノ信用デアアル。世界ノ文明國ガ相協力シテ支那幣制改革ノ必要ナルヲ感ジ一致團結シテ之ガ後援ヲ爲サバ此ノ信用ハ聽テ中央集權ノ微弱ナル缺點ヲ補フコトガ出來ルモノト信ゼラル、特ニ紙幣ヲ發行スル中央銀行ニ對シテハ、各文明國ハ支那ニ其必要ナル資金ヲ貸與シ、之ヲ監督シ、其レト同時ニ其ノ信用ヲ以テ中央銀行ノ後楯トナルベキデアアル。中央集權ノ欠陥ハ大ニ之ヲ補フコトヲ得ルモノト考ヘラレル。

サテ果シテ然ラバ支那ノ幣制ヲ改革シ金本位ヲ採用スルニハ如何ナル方法ニ依ルベキヤ。是レニハ先ヅ今日果シテ幾何ノ正貨ガ支那國內ニ於テ流通シツ、アルヤヲ知ルヲ要スル。然ルニ其ノ金額甚ダ明確ナラズシテ之ヲ知ルコト甚ダ容易デハナイ。支那財政部ノ調査スル所ニ依レバ各造幣廠開辦以來民國ニ於ケル本位貨幣タル一圓銀貨ノ鑄造高ハ三億九千貳百一十一萬五千四百九圓ニ達シテ居ル。此ノ金額ハ我ガ大藏省ニ於テ調査シタル計數ト敢テ一致スルモノニ非ザルモ、支那政府ノ調査スル所ナレバ、今姑ク此ノ計數ヲ標準トスルコト、スルニ尙ホ取敢ヘズ、此ノ計數ニ就テ注意セザルベカラザルコトハ此ノ内銀爐其他ニ於テ鑄潰サレタル額亦甚ダ少ナカラザルコトデアル。是ヲ以テ今日支那ニ正貨トシテ流通シツ、アル貨幣ハ、各種小銀貨取混ゼ恐ラク三億圓ノ上ニ出デザルベシト信セラレル。

今茲ニ金本位ヲ採用スルニシテモ既ニ述ベタルガ如ク、支那一般ニ金貨ヲ流通セシムルノ必要ハ斷ジテナイ。サレバ金本位ヲ採用スルモ、今既ニ正貨トシテ流通シツ、アル右三億圓ノ銀貨ヲ兌換金券ト換ヘ、兌換金券ヲ一般社會ニ流通セシメ、此ノ兌換金券ハ要求次第何時ニテモ本位貨幣タル金貨ト兌換シ得ルコトト爲

セバヨイノデアル。斯クスル時ハ支那ハ銀本位ヨリ變ジテ金本位トナリ金ヲ以テ標準トスルコトトナルノデアル。然ルニ右三億圓ハ全部金貨ト交換シテ金貨ヲ社會ニ流通セシムルニ非ズシテ、銀貨ニ換フルニ金貨ト兌換シ得ル紙幣ヲ以テスルノデアル。紙幣ハ全部之ニ對スル正貨標準ヲ有スレバ是レホド確實ナルコトナク結構ナルコトナケレド世界多年ノ經驗上紙幣ハ何モ全額準備ニ依ルノ必要ハナイ。世界一般ニ行ハル、制度ハ、三分ノ一ヲ標準トスルモノ多數デアル。然レド支那ニ於テハ久シク紙幣ノ信用失墜シ人民餘リニ之ヲ愛好セズ且ツヤ今新タニ支那ノ幣制ヲ改革セントスル場合ナレバ其ノ改革ヲ容易ナラシムル爲メ可成多クノ兌換準備金ヲ有シ容易ニ兌換ノ要求ニ應ジテヤラナケレバナラス。是ガ爲メ兌換準備金ヲ兌換券發行額ノ三分ノ二トスルガ必要デアル。然ルトキハ三億圓ノ紙幣發行ニ對シテ二億圓ノ正貨ヲ有シナケレバナラス。従フテ支那ニシテ此ノ二億圓ノ正貨ヲ準備シ得レバ、支那ノ貨幣制度ヲ金本位トスルコト敢テ必ズシモ非常ノ難事ナリトハシナイノデアル。固ヨリ現在支那自ラハ二億ノ正貨準備ヲ貯フルコト甚ダ容易デハナイ。是レハ借款ニ依ルノ外ハナイ。支那ハ先ヅ我國ニ幣制改革ノ資金トシテ二億圓ノ借款ヲ起セバ茲ニ其ノ幣制改革ノ

端緒ハ開カレルノデアアル。若シ又我國獨リ之ヲ引受クルコト能ハザレバ米國ガアル。最近米國ハ四國借款ニ復歸シ、支那ニ其ノ大ニ蓄積セル資本ヲ放下センコトヲ希望シテ居ル。我國ハ米國ト相提携シ、支那幣制改革ニ必要ナル資金ヲ調達スベキデアアル。殊ニ我ガ正貨ハ今ヤ大ニ激増シテ十數億ニ達シ其一部ヲ割キテ支那ニ貸與スルモ敢テ何等ノ支障ヲ生ゼザルベキナレド、我ガ正貨ハ日本銀行ノ庫中ニ於ケル五億未滿ノ正貨ヲ除キテハ、他ハ盡ク在外資金デアリ、其ノ少ナカラザル部分ハ米國ニ在ル。我ガ政府ハ宜シク此ノ米國ニ存在スル我ガ在外資金ヲ支那ニ振り向ケシムルニ努力スベキデアアル。

斯クシテ支那ノ幣制確立セバ始メヨリ唯ダ一回ノ改革ヲ以テ金本位ト爲スコトヲ得ベク、一旦銀貨ヲ以テ統一シ然ル後更ニ銀本位ヲ變ジテ金本位ト爲ス複雑ナル二重ノ手數ヲ省クコトガ出來ル。幣制改革ハ一般經濟社會ニ極メテ重大ナル影響ヲ及ボスモノナルガ故ニ、妄リニ輕々シク之ヲ行フベキデハナイ。特ニ銀ヲ以テ支那ノ幣制ヲ統一シ得ルナラバ、金ヲ以テモ亦同ジク之ヲ統一シ得ベキ筈デアアル。

第二。新ニ採用スル金本位ノ單位ニハ元ナル名稱ヲ用ヒ、其ノ品位ハ九百、

量目ハ一元ニ付總量十二グレイン八六〇四トスル事。

新貨幣制度ノ單位ハ、或ハ之ヲ兩トシ、或ハ之ヲ圓トシ、或ハ又之ヲ元トスルモ、ソハ全ク支那ノ自由ニシテ、徒ラニ其ノ名稱ニ拘泥スルノ必要ハナイ。サレド支那ニ於テハ、從來元ナル名稱稍々廣ク行ハル、ガ故ニ、其ノ舊慣ヲ重ンジ其ノ單位ヲ元ト稱スルヲ以テ適當ナリト思ハレル。其ノ品位ヲ九百純分量目ヲ一元ニ付十一グレイン五七四三ト爲シタルハ、是レ日本金貨一圓ノ品位量目ト相適合セシメタルモノデアル。蓋シ日支兩國間ノ貨幣ノ單位ニシテ同一ナルトキハ、兩國間ニ於ケル爲替ノ換算大ニ容易トナリ取引上ノ計算總ベテ甚ダ簡便トナリ兩國間ノ貿易ハ爲メニ大ニ發達スルニ至ルベキデアル。是レ我國ニ於テハ、支那ニ於テ其ノ幣制ヲ改革スル場合ニハ大ニ之ヲ助力シ其ノ單位ヲ我國ノソレト全然同様ナラシムルニ至ランコトヲ希望スルノデアル。而シテ金貨一元ハ之ヲ鑄造スルモ取扱上不便大ナレバ、二十十及五元ノ三種ノ金貨ヲ鑄造スレバ可ナリト思ハレル。且ツ金貨ニハ無料ノ自由鑄造ヲ許シ、金ヲ輸納スル者ニハ純量十一グレイン五七四三ニ付キ一元ノ割合ヲ以テ金貨又ハ紙幣ト交換スルコトトスル。

第三、中央銀行ヲ確立シテ兌換券發行ノ特權ヲ獨占セシムル事。

支那ニ於テ金本位ヲ採用スルモ、民度尙低キ支那ニ於テハ實際社會ニ金貨ヲ流通セシムルノ必要ナカルベク、又其ノ必要アル處ニ於テモ、一々實際金貨ヲ受渡シスルハ、徒ラニ其ノ磨滅毀損ヲ生ジ、種々ナル不便ト弊害トヲ來スヲ免レナイ。是ヲ以テ金本位ヲ採用スルモ實際社會ニハ金貨ト兌換セラル、紙幣ヲ發行シ、之ヲ一般ニ流通セシムルニ若クハナイ。人或ハ支那ニ於テハ紙幣ノ流通極メテ困難ナルベシト云フ者ナキニ非ザルモ、支那ニ於テハ古來久シク紙幣ヲ使用スルニ慣レ、今現ニ流通シツ、アル紙幣モ亦甚ダ少クハナイ。紙幣ノ信用ニシテ確實ナルモノナランニハ、其ノ流通ヲ見ザルガ如キハ斷ジテ之ナカルベシト思ハレル。兌換券ハ百二十十及五元ノ四種ヲ發行スルコトトシ、兌換券ノ發行ハ其ノ性質上基礎鞏固ニシテ信用高キモノナルヲ要スルモノナレバ、一大中央銀行ヲ確立シテ之ニ兌換券發行ノ特權ヲ獨占セシムルガ最良ノ方法デアル。之ニ反シテ今日マデ自由ニ紙幣ヲ發行シツ、アル銀行ノ發行權ハ之ヲ整理シナケレバナラス。而シテ此ノ一大中央銀行ハ、通貨ノ制度ヲ刷新スル必要上、新タニ豐富ナル資本ヲ以テ創立スルヲ可トスベク、新タニ中央銀行ヲ設立スレバ過去ノ事情ニ纏綿セラル、ノ恐レ之レナキノ利益アルモ、既ニ支那ニ於テハ中央銀行トシテ中國銀行ガアリ、

又別ニ交通銀行ナルモノモアル、此等ヲ改善シテ真正ナル中央銀行ト爲シ、紙幣發行ノ任ニ當ラシムルノ外ハアルマイ。

兌換準備金ハ紙幣發行額ニ對シテ三分ノ二ノ割合ヲ以テ維持セザルベカラザルコト既ニ述ベタル如クナルガ、此ノ準備金ハ何レニ置クベキヤ。支那ノ金準備金ハ外國ニ保管スベシトノ論モアル。其理由トスル所ハ、(一)今ヤ世界大戰亂ノ影響ヲ受ケ世界ノ各國ハ總ベテ皆金ノ國外輸出ヲ制限シツ、アル。従フテ支那ニ於テハ本來自ラ金ヲ有セズ之ヲ外國ヨリ輸入スル外ナケレドソガ不可能デアル。(二)金準備金ヲ支那ニ置クトキハ支那人ハ紙幣ヲ得レバ直チニ之ヲ金ト兌換スベク、而シテ其ノ得タル金ヲ埋藏シテ再ビ世ニ出サバルベケレバ、金準備金忽チ空乏ヲ告グルノ恐れガアル。従フテ金準備金ハ之ヲ外國ニ置カザレバ、支那ノ金本位制度ハ其成立困難デアル。(三)金準備金ハ縱令日英米等ノ諸國ニ保管スルモ支那ニ於テハ一々其ノ金額ヲ公表シ、外國ニ於テハ支那人ヲシテ自ラ其ノ金準備金ノ監督ニ任ゼシムレバ、金準備金ハ支那政府若クハ支那銀行ニ保管スルヨリモ安全デアル。従ウテ之ヲ基礎トシテ發行スル兌換金券ノ信用ヲ高ムルコトガ出來ル。(四)金準備金ヲ外國ニ置クトキハ直チニ之ヲ爲替資金トシテ利用スルコト

ガ出來ル。從ウテ外國爲替ノ取組送金ノ事ハ、兌換券發行銀行ニ於テ金兌換ノ行ハル、ト同様ニ取扱フコトガ出來ルト云フノデアアル。

サレド支那ニ於テ新ラシキ兌換金券ヲ發行シ、之ヲ一般社會ニ流通セシメ得ルダケノ信用ヲ維持シ、支那幣制ノ確立ヲ爲サントスルニ當リテハ、其ノ兌換券ハ最モ信用アルモノタラシメナケレバナラス。兌換券ノ信用ヲシテ最モ確實ナラシムルニハ之ヲ事實ニ於テ無條件ニ且ツ容易ニ兌換シナケレバナラス。然ラザレバ一般社會ハ兌換券ヲ信用シナイ。兌換券ヲ容易ニ且ツ無條件ニ兌換セントスルニ當リテハ其ノ之ニ必要ナル兌換準備金ハ支那内地ニ於テ之ヲ保管シナケレバナラス。之ヲ外國ニ所有スルニ於テハ、直チニ紙幣ノ兌換ニ應ズルコトハ出來ナイ。兌換準備金ハ我國ニ於ケルガ如ク、其一部分ニ限り在外資金トシテ之ヲ保管スルハ敢テ不可ナシトスルモ、其ノ全部ヲ外國ニ保管スルハ、支那ノ幣制改革ニ便利ナル方法ナリト謂フコトハ出來ス。固ヨリ新タニ發行スル兌換金券ヲ無條件ニ且ツ容易ニ金貨ト兌換スルニ於テハ、支那人ニシテ兌換ヲ要求スル者輩出スベキハ疑フ可カラザル事ナルベキモ、其ノ兌換ノ要求ハ思フニ唯ダ其ノ初期ニ於テ主トシテ見ルベキノ現象デアアル。初期ニ於テ兌換ノ要求ヲ受クルマ、ニ迅速

ニ之ニ應ズレバ、一般社會ノ人々ハ之ニ安心スベク、支那ニ於テ既ニ紙幣ノ流通スル事實アル以上、其ノ全部ガ盡ク直チニ兌換ヲ要求セラル、ガ如キ事斷ジテアラザルベシト思ハレル。唯ダ其ノ初期ニ於テハ、支那ノ幣制改革ヲ斷行セントスル以上、多少ノ犠牲ハ之ヲ拂ハナケレバナラス。論者又、今ヤ各國ハ總ベテ皆金ノ輸出ヲ嚴禁スルガ故ニ、支那ニ金準備金ヲ保管セント欲スルモ、支那ハ其ノ之ニ必要ナル金ヲ得ルノ途ナシトイフ者アランモ、若シ然ルニ於テハ、支那ノ金本位制度ハ到底之ヲ實行スルノ望ミナシト謂ハナケレバナラス。苟モ支那ニ金本位ヲ採用セシメントスル以上、之ヲ必要トスル諸國ハ縱令金ノ一般的輸出禁止ヲ爲シツ、アルニモセヨ支那幣制ノ改革ノ爲メニハ宜シク除外例ヲ設ケ、支那ニ對シテ金ヲ貸與スベキデアル。殊ニ我國ハ、自ラ其ノ國內ニ於テ保有スル正貨比較的少ナク、寧ロ其大部分ハ在外資金トシテ外國ニ保有シツ、アルモノナレバ、我が政府ハ宜シク是等ノ外國政府ト燃組折衝シ、其ノ一部分ヲ支那ニ廻送スルノ自由ヲ得ルニ努力スベキデアル。

次ニ支那ハ縱令金本位制度ヲ採用シ、自ラ金準備金ヲ保有スルニ至ルモ、支那ノ對外貿易ノ關係ハ常ニ輸入超過ノ一方デアル。加フルニ支那ハ、年々其ノ外債ノ

元利金ノ爲メ少ナカラザル對外支拂ヲ必要トスル。輸入超過ニ次グニ又輸入超過ヲ以テシ、其ノ上外債ニ伴フ對外支拂アルニ於テハ、支拂ノ金準備金ハ假令相當巨額ニ達スルモ、忽チニシテ缺乏ヲ告ゲザルヲ得ナイ。正貨準備缺乏スルニ至レバ、金本位ノ維持ハ甚ダ困難デアアル。サレバ支那ハ、其ノ貿易關係ノ輸入超過ヲ變ジテ輸出超過トシナケレバナラス。ソレガ爲メニハ現在行ハル、ガ如キ輸出租ハ之ヲ廢止スルヲ要スベク、或ハ大ニ海外ニ其ノ販路ヲ求メ得ベキ綿花ノ栽培ヲ獎勵シ、或ハ製鐵ノ精鍊ヲナシ、其ノ他國民經濟ノ發達ヲ計ルニ必要ナル方法ヲ講ズルヲ必要トスベク、貿易關係以外ニ於テハ大ニ移民ヲ獎勵シテ、外資ヲ吸收スルノ策ヲ講ズベキデアアル。現ニ南洋華僑ノ如キ、年々少ナカラザル金額ヲ其ノ本國タル支那ニ送り、輸入超過ノ大部分ヲ相殺シテ居ル。尙ホ支那ニシテ愈々金本位制ヲ採用スルニ至ラバ、其ノ結果ハ外資ノ輸入容易トナリ、生産業ノ發達ヲ促スベク、輸入超過ノ逆勢ハ大ニ緩和セラルベキヤ言フマデモナイ。

兌換券ヲ發行スル中央銀行ハ、タトヘ支那自ラノ大ニ好ム所ニ非ザルニモセヨ、支那ニ資金ヲ貸與シタル國ニ於テ其ノ監督ノ實權ヲ掌握シ、幣制改革ノ資金ガ濫ヲニ政爭其ノ他ノ費用ニ轉用セラル、ヲ防止シナケレバナラス。且ツ支那ノ幣

制改革ノ事實上甚ダ容易ナラザルハ、支那ニ中央集權確立セズ、警察力從ウテ甚ダ微弱ナルニ基ヅクモノナレバ、此ノ中央集權ノ缺ヲ補フガ爲メニモ何等カノ方法ヲ講ジナケレバナラヌノデアアル。之ガ爲メニハ世界ノ強大國ガ其信用ヲ以テ幣制改革ノ後援トナルノ外ハナイ。中央銀行ニ對シテモ支那ニ利害關係ヲ有スル諸國ハ大ニ其ノ幣制改革ノ資金ヲ貸與スルト同時ニ其巨大ナル信用ヲ以テ中央銀行ヲ監督シ同時ニ「バツク」スルノ必要ガアル。

中央銀行ハ集中制度ニ依ルヲ以テ宜シトスル。但シ支那ハ其領土廣大、一中央銀行ヲ其ノ首府タル北京ニ置キ、コヽニ紙幣ヲ發行シテ之ヲ全國ニ流通セシムルガ如キハ、事實上非常ニ困難ナル事ナルヲ以テ、樞要ナル地方ニハ其ノ支店ヲ設置スルノ必要ガアル。人或ハ紙幣ノ發行ハ之ヲ中央ノ一機關ニ集中獨占セシメ他ヲ禁止スル統一制度ハ實行不可能ナレバ、當分ノ内ハ各種ノ紙幣通貨ヲ並行セシメ、其ノ内最モ信用高キ紙幣ヲシテ優勝劣敗ノ法則ニ依リ四百餘州ニ通用セシムルニ若カズト謂フ者ナキニ非ザルモ、斯クテハ支那ノ幣制改革ハ容易ニ之レガ實行ヲ望マレナイ。金本位制度ヲ確立スル以上、其ノ紙幣モ亦之ヲ統一シ、一中央銀行ヨリ發行スルヲ肝要トスル。

第四、金貨及兌換券ニハ無限法貨ノ資格ヲ付與シ、且ツ關稅ノ納付ハ必ズ金貨若シクハ兌換券ヲ以テ之ニ充テシムル事。

現在支那ニ於テハ、既ニ述ベタルガ如ク、幾種雜多ノ通貨紛然雜然トシテ並ビ行ハレテ居ル。能ク之ヲ整理シ、新貨幣ヲ一般ニ流通セシムルハ、甚ダ容易ノ業デハナイ。サレド新貨幣ヲ一般ニ流通セシメザレバ、支那幣制ノ改革ハ到底覺束ナキ事デアアル。是ニ於テ金貨並ニ兌換券ニ法貨ノ資格ヲ與ヘ、公私一切ノ支拂ニ何等ノ差支ナク通用シ得ルモノト爲スハ勿論、海關稅ノ納付モ必ズ此ノ金貨及兌換券ヲ用ヒシムル事トセバ、一般人民ハ安心シテ之ヲ使用スルニ至ルベク、漸次新貨幣ノ使用ニ慣レ、殊ニ金貨國ニ對スル債務支拂ニ最モ便利ナルニ因リ、漸次一般ニ廣ク流通スルニ至ルベキデアアル。

第五、小取引ノ爲メ適當ナル補助貨ヲ製造發行スル事。

金貨ハ其ノ最小ナルモノト雖モ、五元デアアル。其以下ノモノハ之ヲ鑄造スルニ難ク、紙幣モ亦餘リニ少額ナルモノハ、之ヲ發行スルニ便利デナイ。小取引ノ爲メニハ補助費ヲ必要トスルヤ、敢テ論ズルマデモナイ。補助貨ハ一元、一元ノ二分ノ一、五分ノ一、十分ノ一、一元ノ百分ノ二、百分ノ一ノ銅貨ヲ鑄造スルガ好イ。

而シテ是等ニハ制限法貨ノ資格ヲ與ヘ、銀貨ハ十元マデ、銅貨ハ一元マデ法貨トシテ通用セシムルノ制度ニ依ルヲ便利ト考ヘル。又今ヤ各國共ニ少額紙幣ヲ發行スルコト少ナカラザルヲ以テ、支那ニ於テモ場合ニヨリテハ一元以下ノ少額紙幣ヲ發行スルモ、敢テ甚シキ差支ヲ見ナイ。但シ是レハ餘リ歡迎スルコトデハナイ。

第六、造幣廠ハ之ヲ統一シ、貨幣鑄造權ハ之ヲ國家ニ獨占シ、外國貨幣ノ流通ヲ禁止スル事。

現今支那ニ於テハ、銀貨ヲ鑄造スル造幣廠ハ八ヶ處、銅貨ノ造幣廠ハ實ニ十七ヶ處ノ多キニ達シテ居ル。而シテ是等ノ造幣廠ハ各省各々特別ナル監督ヲ受ケ、其ノ鑄造スル貨幣總ベテ皆同一ナリト謂フコトハ出來ナイ。地方官亦造幣廠ヲ以テ一ノ財源ナリト思惟スルノ傾向ガアル。斯クテハ支那幣制ノ統一ハ到底其ノ實現ヲ見ルコトガ出來ナイ。從ウテ幣制統一ノ實ヲ擧ゲント欲スレバ、是等造幣廠ヲ統一シテ之ヲ廢合整理シ、貨幣ノ鑄造權ハ之ヲ國家ニ獨占シナケレバナラヌ。是レニハ多少ノ反對アルベキモ、是非トモ斷行シナケレバナラヌ事デアル。外國貨幣ハ一國ノ主權ニシテ確立スルニ於テハ唯ダ一塊ノ地金トシテ見ルベク、之ヲ貨幣トシテ流通セシムベキモノデハナイ。現在支那ニ於テハ、種々ナル外國貨幣

流通シツ、アレバ、之ガ流通ハ禁止シナケレバナラナイ。固ヨリ事外國ニ係ハルガ故ニ、外國貨幣ノ流通禁止ハ稍々困難ナル事情ノ纏綿スルモノガ無イデモナイ。然シ是レハ漸次ニ是非共禁止シナケレバナラナイ。外國政府モ支那ノ幣制改革ヲ斷行セシメントスル以上其貨幣ノ流通ヲ禁止セララルルニ異議ヲ挿ムベキデハナイ。外國銀行ノ紙幣ノ流通モ亦之ヲ禁止シ整理スルノ必要ガアル。是レ亦其ノ實行甚ダ困難ナル問題ナルヲ以テ、漸次ニ之ヲ行フノ外ナク、濫リニ外國銀行ノ既得權ヲ侵害セザルニ注意ヲ要スル。但シ外國政府ニシテ其ノ資金ヲ支那ニ貸與シ、支那幣制改革ノ爲メ多少ノ助力ヲ爲スニ於テハ、當該外國ノ支那ニ於ケル銀行ハ、濫リニ其ノ幣制改革ニ反對シ、之ヲ妨害スルノ態度ニ出ツベキモノニ非ザルベシト考ヘラレル。

第七。現在支那ニ流通スル内國銀貨銅貨及制錢ハ之ヲ新貨幣ト引換フル事。

現在支那ニ於テハ、種々雜多ナル各種銀貨銅貨及制錢ノ流通シツ、アルコト、既ニ述ベタルガ如クデアアル。苟クモ新制度ヲ確立スル以上ハ、此等舊貨幣ハ迅速ニ新貨幣ト引換ヘ、其統一ヲ計ラナケレバナラス。サレド現在夥シク流通シツ、ア

ル舊貨幣全部ヲ一時ニ悉ク引換フルハ是レ甚ダ容易ナル事デハナイ。是ヲ以テ一定ノ期間ヲ限リ通用ヲ許サナケレバナラス。而シテ此ノ場合其ノ價格ヲ全然放任スルトキハ弊害少ナカラザルベキガ故ニ、毎三ヶ月ニ其ノ公定價格ヲ定ムルガヨイ。舊貨幣ハ此ノ公定セラシタル價格ニ依リテ流通セシメ、成ルベク多ク租稅其ノ他ノ公納ニ充テシムルヲ獎勵シナケレバナラス。斯クシテ舊貨幣ハ漸次回收スルコトヲ得ルノデアアル。但シ舊銀貨ハ、金貨ニ對シテハ銀塊相場ノ變動ニヨリ其ノ割合時々大ニ變化スベキモノナルヲ以テ、公定價格ハ三ヶ月ヲ標準トスルモ必要アル場合ニハ隨時政府ニ於テ之ヲ改定スルノ自由ヲ保有シナケレバナラス。

支那幣制改革ノ要旨ハ概略以上述べルガ如クデアアル。之ガ實現ハ事固ヨリ容易ナラザルベキモ、支那ハ今ニ於テ之ヲ斷行シナケレバナラス必要ニ迫ラレテ居ル。殊ニ銀價ハ今ヤ戰爭ノ影響ヲ受ケ著シク暴騰シテ居ル。此ノ場合支那ノ銀ヲ處分スルニ於テハ、其ノ利益ヤ甚ダ大デアアル。然ルニ一朝平和克復センカ、銀價ノ下落ハ到底免ル、コトハ出來ナイ。銀價下落スルニ於テハ支那ハ戰後必ズヤ財政上其ノ負擔ニ堪ヘカネ、其ノ財政經濟ハ遂ニ拾收スベカラザル混亂ノ極ニ陷

リ、支那ノ前途ニ大ナル危害ヲ加フルノ恐レガアル。然レバ支那ハ銀價ノ騰貴シツ、アル今日ニ於テ、宜シク其ノ幣制改革ヲ斷行スベキデアル。若シ遲疑逡巡決スルコトナクンバ、千載一遇ノ好機空シク逸シ去リテ、金本位樹立ノ事、今後遂ニ永久ニ絶望ニ歸スルノデアル。唯ダ支那ノ當局者ハ、幣制改革ニ當リ、兩替商及私立銀行其ノ他ノ反對ニ遇ヒ、之ヲ恐ル、コトナキニ非ザルベキモ、兩替商ヤ銀行ノ反對ハ決シテ支那國民經濟ノ利益ヲ標準トシタルモノデハナイ、彼等自身ノ利益ヲ主眼トスルモノデアル。而シテ彼等ノ利益ハ同時ニ地方ニ損失ヲ被リツ、アルモノアルヲ忘レテハナラス。サレド彼等ノ利益ト雖、ドモ、妄リニ之ヲ剝奪スルハ餘リ獎勵スベキ事ニ非ザレバ彼等ニモ亦幣制改革ノ利益ヲ分與スルヲ可トスル。即チ彼等ヲシテ中央銀行ノ株主タラシメ、紙幣發行ヨリ生ズル利益ニ均霑セシムルガ宜シカラント思ハレル。其他支那ノ幣制改革ハ財政上ノ影響ヲ被ルコト少ナカラザルベケレバ、幣制改革ハ先ヅ財政整理ヲ行ヒ、之ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ置キ、財政ヲ以テ幣制ニ累ヲ及ボサザルニ注意シナケレバナラヌノデアル。

七 制度改革ノ影響

支那ノ幣制ニシテ以上縷述スルガ如ク改革セラレンカ、其ノ最モ大ナル利益ヲ獲得スルモノハ支那自身タルヤ敢テ言フヲ待タヌ。即チ支那ハ幣制改革ノ結果、其ノ物價ハ確實トナリ、取引ハ安全トナリ、商業ハ繁榮シ、貿易ハ進歩シ、外資ノ輸入容易トナリ、金銀比價變動ノ影響ヲ被ルコトナク、從ウテ財政上ノ負擔輕減セラレ茲ニ支那ノ財政經濟ノ基礎鞏固トナリ、其ノ國運ハ大ニ隆盛ニ向フコト、ナルノデアアル。

我國モ亦今ヤ物價著シク騰貴シ、其ノ爲メ種々ナル社會問題ヲ引起シツ、アル一方ニ、爲替資金ハ益々缺乏ヲ告ゲ、我が國民經濟ハ甚ダ上景氣ナルガ如キモ尙ホ物價調節ノ經濟策ヲ採用スルノ必要ニ迫ラレ、通貨ノ收縮ヲ餘儀ナクセラレントスルノ勢デアアル。通貨ヲ收縮セバ爲替資金益々不足ヲ告グベク、遂ニハ國際貿易ヲ制限セザルベカラザルノ運命ニ立チ至ラントモ限ラナイ。併シ我が輸出貿易ヲ制限スルハ是レ甚ダ重大ナル事デアアル。一國ノ對外發展上大ニ熟考セザルベカラザル事デアアル。但シ我が通貨ニシテ益々膨脹シ、物價騰貴ニシテ其止マル所ヲ知ラザランニハ我が輸出貿易ヲ制限セズトモ大ニ騰貴スル商品ハ之ヲ外國ニ販賣スルコト難ク、輸出貿易ハ此ノ點ヨリ縮少セラル、ノ恐レガアル。此ノ如キ

状態ハ我國ノ通貨膨脹ノ源因ヲ除却スルカ若クハ之ヲ除却スルコト能ハザレバ我が通貨ノ膨脹スルダケ、ソレダケノ程度ノ資金ヲ外國ニ放下シテ之ヲ救済スルヨリ他ニ良策ハナイ。現在我國ノ困難ヲ救済スル最良ノ方法ハ國際放資デアル。而シテ此ノ國際放資ハ之ヲ支那ニ試ムルヲ以テ最善ノ方法ナリトスル。然ルニ支那ニ對スル我が國際放資ハ、貨幣制度異ナルガ爲メニ金銀比價ノ變動ヲ受ケ、到底思フ程ノ進捗ヲ見ナイ。之ヲ解決スルニハ支那ノ幣制ヲ改革スルノ外ハナイ。支那ノ貨幣制度ニシテ金本位トナラシムルカ、我が國民經濟ノ前途ニ横ハリツ、アル總ベテノ困難ハ比較的甚ダ容易ニ解決セラル、ノデアアル。此ノ意味ニ於テ支那ノ金本位採用ハ大ニ我國ノ利益トスル所デアアル。

殊ニ支那ニシテ金本位ヲ採用センカ彼我ノ爲替相場ノ變動ハ正貨輸送點以上ニ變動ヲ見ルコトナキニ至ルベク、我が紡績其他ノ對支那輸出品ハ其ノ取引安全確實トナリテ、大ニ増進スベキヤ論ヲ俟タナイ。今日ノ如ク銀塊相場下落スレバ我紡績株モ之ガ爲メニ下落ストイフガ如キ状態ハ之ヲ見ルコト能ハザルニ至ルノデアアル。且ツ支那ニシテ金本位ヲ採用セバ我國ト支那トノ經濟關係ハ大ニ融各スルニ至ルベク、日支經濟共通トナリ、延イテハ亞細亞ノ國際經濟疏通シテ、我國ハ之ガ國際金融ノ中心地ニナルノ可能性ヲ有スルニ至ルノデアアル。其ノ他支那

ハ、我國ノ最モ重要ナル生産品輸出市場タルト同時ニ、極メテ重要ナル原料供給地ナルヲ以テ、日支經濟ノ融合ハ此等ノ關係ヲ益々密接ナラシムルニ至ル。既ニ此等ノ關係ニシテ密接ナルニ至ランカ其ノ基礎經濟上ニ在リ甚ダ鞏固ナルモノナルガ故ニ日支親善モ亦確乎動カスベカラザルモノトナルノデアアル。世界ノ諸國亦支那幣制ノ改革ヲ熱望シツ、アレバ、之ガ改革ノ斷行ハ世界ニ對スル一ノ福音トナルノデアアル。支那ノ幣制改革ハ支那ノ利益デアリ、日本ノ利益デアリ、同時ニ全世界ノ利益デアアル總ベテノ悦ブ所デアアル。此ノ際支那ハ之ヲ斷行スルノ勇氣ヲ振起シ世界ノ文明國ハ奮フテ之ヲ助クベキデアアル。サリナガラ、貨幣制度ノ改革ハ、其ノ實之ヲ言フニ易クシテ行フニ極メテ難イ。之ヲ我國ニ於ケル明治三十年金本位採用ノ當時ニ鑑ミルモ明治二十七年ヨリ組織セラレタル貨幣制度調査會ニ於テハ澁澤男爵ヲ初メ高田前文部大臣豊川良平、益田孝、莊田平五郎、故田口卯吉博士ノ諸氏モ、皆金本位採用ニ反對サレタノデアアル。而シテ今ヤ澁澤男爵ノ如キ金貨本位採用二十年紀念祝典ニ於テ、當時金本位採用ニ反對シタル不明ヲ告白セラレテ居ル。制度ノ改革ハ之ニ見テモ甚ダ容易ナラザルヲ知ルベキデアアル。サレド支那ハ過去二十年間ニ於ケル我國ノ經驗ニ鑑ミ、宜シク之ヲ斷行スルノ決心ヲ爲スベキデアアル。我國モ亦總ベテノ便宜ヲ提供シテ支那ヲ助ケルガヨイ。

但シ我國ハ支那ニ向ウテ其ノ幣制ヲ改革スベキヲ懲慫スベキ地位ニ在ルモ尙ホ、我國ニハ一ノ大ナル弱點ガアル。ソハ我國ハ支那幣制改革ヲ勸誘シナガラ未ダ日本ノ國論一定シ居ルヲ見ナイ。我國ニ於テハ我金本位ヲ主張スル者アリ或ハ銀貨統一ヲ言フ者アリ、或ハ金爲替本位採用ヲ言フ者アリテ、未ダ意見ノ一致ガナイ。是レ甚ダ悲シムベキ事デ、苟モ我國ガ支那ニ幣制改革ヲ勸説スル以上、先ヅ我が國論ヲ統一シナケレバナラス。此ノ點我國ノ朝野ニ向ウテ大ニ其ノ反省ヲ促サザルヲ得ナイ。

八 支那ノ金券條例

然ルニ今ヤ、支那政府ニ於テハ千九百十八年九月十日敕令三十三號ヲ以テ金券條例ヲ發布シタ。今其ノ内容ヲ見レバ實ニ左ノ如クデアル。

第一條 政府ハ國際貿易ヲ便利ニシ、金本位改用ニ豫備センガ爲メ、幣制局指定ノ銀行ヨリ金券ヲ發行スルコトヲ得。

第二條 金券ノ單位ヲ金一圓トシ、金一圓ハ純金〇・七五二三一八瓦、即チ庫平二分〇一毫六絲八忽八ヲ含有ス。金一圓ノ十分ノ一ヲ一角トシ、百分ノ一ヲ分トシ、千分ノ一ヲ釐トシ、皆十ヲ以テ進ム。

第三條 金券ノ種類ハ一圓五圓十圓二十圓五十圓百圓トス。政府ハ幣制局指定ノ銀行ヲシテ、五角一角二分三種ノ銀券ヲ發行セシムルコトヲ得、並ニ造幣總廠ヲシテ一分銅貨ヲ鑄造セシムル事ヲ得。

第四條 金券ハ金貨ヲ鑄造セザル以前ニ於テ、其所持者ハ指定ノ銀行ニ向フテ本國ノ或ル地或ハ外國ニ爲替ヲ取組ム事ヲ得、其ノ鑄造後ハ金貨ト引換ヘ、並ニ本國ノ或ル地或ハ外國ニ爲替ヲ取組ム事ヲ得。

金券ハ外國金券或ハ地金ヲ以テ、含有スル所ノ純金重量ニ依リ、指定ノ銀行ニ向ツテ之ヲ換算交換スル事ヲ得。金器具モ同斷トス。

第五條 金券ト現行ノ國幣トノ比價ヲ定メズ。但シ指定銀行ノ各地隨時揭示ノ比價ニ照シ、金券ヲ以テ該銀行ニ向ツテ國幣ト引換ヘ、或ハ國幣及地銀ヲ以テ金券ト引替フル事ヲ得。

第六條 指定ノ銀行ガ金券ヲ發行スルニハ十割ノ準備金ヲ有スベシ。此準備金ハ本國金貨或ハ地金或ハ外國金券ヲ以テ、内外爲替取組ミ地ニ分存スベシ。又準備金ヲ分存セル地點及金額ハ、該銀行ヨリ毎旬一回公布スベシ。尙前項ノ準備金ハ幣制局派遣ノ係員ヨリ隨時検査ヲ受クベシ。

第七條 金幣ハ指定ノ銀行ガ隨時揭示スル所ノ比價ニ依リ公私金錢ノ受拂ニ

使用スル事ヲ得。

第八條 指定ノ銀行ハ金券ヲ以テ預金及其他ノ營業ヲ爲ス事ヲ得。

第九條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之レヲ施行ス。

思フニ是レ、今ヤ銀價騰貴セルヲ以テ、此ノ際金券ヲ發行シテ外資ノ輸入其ノ他財政上有利ナル方法ヲ講ジ、併セテ將來銀價下落ノ際ニ於ケル危險ヲ豫防セントスルニ外ナラナイ。金券ノ發行ハ一面國際貿易ノ發達ニ大ニ資スル所アルト同時ニ、他面金本位採用ノ準備トナルベキモノデアアル。然レド新タニ發布セラレタル金券條例ニ於テハ、金準備金ナクシテ金券ヲ發行セントスルニ在レバ、其ノ紙幣ハ不換紙幣タルニ終ルニ至ルベク、決シテ基礎アル改革ナリト謂フコトヲ得ナイ支那ハ宜シク斯カル改革ヲ試ミル其ノ前ニ、其ノ金準備金調達ノ方法ニ就イテ考慮ヲ運ラスベキデアアル。苟モ制度ヲ改革ストイフ以上、姑息ノ改革ハ寧ロ、之ヲ試ミザルニ如カナイ。而シテ金券ノ基礎ハ正貨ニ在リ、其ノ信用亦一ニ繫ツテ正貨ニ在ルヲ忘レテハナラナイ。殊ニ支那幣制ノ改革ニ就テハ、支那ガ今日マデ之ガ爲メニ資金ヲ借リ入レタル四國銀行ニ對シテ篤ト相談スル契約ノ下ニ在ル。然ルニ支那政府ハ金券條例ヲ突然發布シテ、右銀行團ニ對スル適當ノ手續ヲ履マザリシガ如クナルヲ以テ、本令一タビ發布セラル、ヤ、各方面ノ反對中ニハ猛烈ニ、未

ダ之ガ實施ノ運ビニ至ラザル現狀デアアル。但シ支那幣制改革ノ機運ハ大ニ促進セラレツ、アルコト、此ノ金券條例ニ依リテモ明白デアアル。吾人ハ其ノ手續ノ如何ナルヲ問ハズ、一日モ速カニ眞正ナル支那幣制改革ノ斷行セラレンコトヲ熱望シテ止マナイ。

想ヒ起ス、其レハ千九百〇六年夏ノ事デアツタ。吾人ハ恰モ米國留學ヲ終ヘ、米國ヨリ英國蘇格蘭ニ向フ太平洋上ノ便船中、甲板上一日一米人ト端ナク亞細亞論ヲ闘ハシタコトガアル。而シテ其ノ米人ハ亞細亞ニ向ヒツ、アリシ者ナルガ盛ンニ支那ニ普遍的ノ物三個ノ必要アルヲ絶叫シタ。此ノ三個ノ物ナケレバ支那ハ到底完全ナル獨立國タルコト能ハズトイフノデアアル。其ノ三トハ、一ニ曰ク、*universal money* ニニ曰ク、*universal language* 三ニ曰ク、*universal government* 是レデアアル。爾來春風秋雨茲ニ十有二年、未ダ此ノ三個ノ條件ハ一モ充タサレテ居ナイ。而シテ支那ハ又極メテ鞏固ナル獨立國ナリト謂フコトハ出來ス。責メテ此ノ三個ノモノ總ベテ、ナクトモ其ノ内ノ最モ重要ナル者ノ一タル、ユニヴァーサル、モネー」ダケニテモ、一日モ速カニ之ガ實現ヲ致サセタキモノデアアル。(完結)